

令和元年度 八鹿高等学校学校評価

評価 4（よく達成できた） 3（まずまず達成できた） 2（あまり達成できなかった） 1（達成できなかった）

評価項目	目標 (具体的成果、評価の主材料)	評価 平均	成果・次年度への改善策	学校関係者評価
学校経営	教育内容の魅力化、広報や地域との連携強化を図り入学したい学校とする (定員確保、通学手段の改善、複数志願選抜の円滑な実施)	3.2	・オープンハイスクールで中学生に向けた授業を行ったことは非常に有益だった。 ・「八高だより」の中3生配付により、本校の取組が積極的に広報されるようになった。 ・昨年までと比較して、本校の取組が各新聞社に取り上げられるようになった。 ・外的な要因（高大接続等）により魅力が増していると考えられるが、内的な要因はあまり見られない。 ・八鹿駅からの自転車通学の整備が早急に求められる。 ・自転車通学区域の見直しが必要である。 ・探究活動が全学年レベルで展開されればさらに良い。	・来年度の募集定員が5クラス規模を確保できたのは、学校が評価された結果である。 ・南但地区以外の受検者が増えるよう広報すべきである。 ・卒業生が将来的に但馬地域に戻ってきたくるような「ふるさと教育」に力を入れて欲しい。
学習指導	主体的・対話的でより深い学び、探究的な学びを全教科で推進する (高大接続による学力向上事業、「総合的な探究の時間」の充実)	3.2	・高大接続改革推進事業で刺激を受け学習意欲の上があった生徒も多い。 ・高大接続改革推進事業により、テレビ会議システムの導入や外部講師の特別授業で生徒や教職員の意識が高まった。 ・高大接続改革推進事業による教職員・生徒の多忙化への配慮が求められる。 ・高大接続の全体像が見えにくい。 ・探究活動や高大接続は、一部の教科と職員に負担が集中している。 ・年々生徒の学力格差が広がっていく中で、今後、習熟度別学習の充実を図っていくことが必要である。	・一般の者からは、高大接続改革推進事業とは何か分かりづらい。 ・高大接続改革推進事業を中学生に対してもっと広報すべきである。 ・学習意欲の向上を、進路実績などに結果として表して欲しい。 ・生徒にとって分かりやすい授業を展開して欲しい。

生徒指導	いじめのない規律ある学校生活を徹底し、学習・部活動への意欲を向上させる (指導方針の共通理解と生徒への周知、ルールやマナーの遵守)	2. 8	・生徒指導方針の共通理解やルール、マナーの遵守という点では、まだ課題が多い。 ・時間厳守や服装・頭髪など規律ある学校生活には、ほど遠い感がする。 ・共通理解を持って全教職員による生徒指導（生徒への声掛け）が求められる。 ・「ブラック校則」と呼ばれる校則がないか点検が必要である。 ・頭髪、通学カバン、靴下の指導が必要（特に頭髪については、途中でうやむやになり注意しなくなった）。 ・生徒指導での学年によるばらつきが見られる。 ・規律があいまいであり、教員により指導内容が異なる（指導しない教員もいる）ので、改善が必要である。 ・校則やルールの精選をする必要がある。 ・教職員間の校則・ルール・マナーの共通理解と周知が必要である。	・生徒指導の評価が厳しい感がある。学校任せにするのではなく、保護者や家庭がもっと指導すべきである。 ・生徒指導で気になる生徒が学習態度も意欲的でないことが多い。 ・学年団が団結し、問題を抱えている生徒を好転してやって欲しい。 ・中学校との部活動交流を積極的に行い、学校の魅力を中学生に伝えて欲しい。
進路指導	進路指導体制を強化し、生徒の進路実現を効果的にサポートする (国公立大学合格者数増加、新大学入試制度への対応)	3. 2	・進路指導部と学年団は必死に頑張っていると感じる。 ・高大接続改革推進事業の成果は、生徒の進路実績にかかっている。 ・地方の国公立大学へ生徒の目を向けさせる仕掛けを考える必要がある。 ・落ち着いて勉強のできる場が少ない。 ・国公立大学への進学者を増やすためには、土日にもっと勉強させないといけない。 ・部活動より勉強時間の確保を優先すべきである。 ・考査前の部活動禁止期間が厳守されていない。（「ノー部活デー（平日も週休日も）」も遵守されていない。） ・生徒たちの進路目標が学年団以外に伝わってこない。 ・理系（2H）に入れなかった生徒も数Ⅲが選択できるよう検討が必要である。 ・新大学入試制度への対応やそのための学力の定着をさらに向上させる必要がある。	・保護者が行かせたい学校には、ある程度の進路実績が重要である。 ・進路実現のため、課題等で土日にもっと勉強させて欲しい。 ・学校として新大学入試制度への対応に十分に取り組んで欲しい。 ・但馬地区の学校のみならず、県下の伝統校や進学校の取組を参考に、効果的な進路指導を行って欲しい。